

チーム3ミニッツありがとう新聞 8・9月合併号

「ありがとうのはがき」を書こう 1日3分間「ありがとう」を考える たくさんの才能を みんなが持っている

発行 NGOチーム3ミニッツ事務局 大阪市北区西天満4-13-5-306 <<http://t3m.jp>> TEL. 050-3309-9632 FAX. 050-3617-4356 発行人：三杉隆敏 編集人：太田空真

社会の循環と共生する「ありがとうのはがき」がスタートします

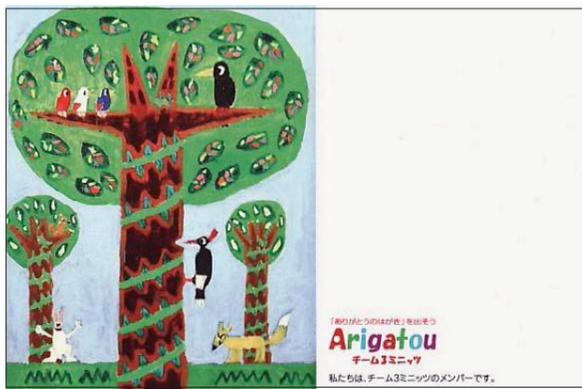
今年1月からスタートした「チーム3ミニッツ」は、多くの企業からご協賛をいただき大きく活動することができました。今月までに作成した「ありがとうのはがき」は、総数5万6千枚になりますが、あらためてチーム3ミニッツを支えてくださった皆様に深く感謝をいたします。

チーム3ミニッツは、これからも「ありがとうのはがき」を子どもたちに配布していきますが、この8月から、社会の循環と共生する、チーム3ミニッツ・オリジナルの「ありがとうのはがき」を一枚150円で販売することにいたしました。

この「ありがとうのはがき」には、もちろん「ARIGATOU」のロゴが入りますが、あなたがこのはがきを購入するたびに、日本の「グリーン電力」とアフリカ・ウガンダにある「元・子ども兵のための社会復帰施設」に、はがき1通につき10円の寄付をするシステムをとることにいたしました。

チーム3ミニッツがなぜ、「グリーン電力」や「ウガンダの元・子ども兵たち」に寄付をするのか、という質問があるかもしれませんが、そこに、チーム3ミニッツがめざす循環社会の形成という共通テーマがあります。

「ありがとう」は単なるお礼や挨拶の言葉ではなく、社会を潤す大切な役割を持っています。しかし、それがおろそかにされる時代は、社会はギクシャクしてしまう定めを持っています。社会にある多くの善意の循環が途絶えはじめると「ありがとう」の心が希薄な世界が見え始めるという事実は、歴史に多く見ることができます。



循環がない社会では「ありがとう」が希薄になる

現代は、水も空気もタダでなくなった時代です。ペットボトルの水を買うことは当たり前となり、CO2削減のために、企業や政府は多くの基金を支出しています。

CO2の削減が声高に叫ばれる時代は、「ありがとう」の言葉も希薄な時代だといえます。逆にいえば、地球の循環が円滑に行われていない社会では、「ありがとう」の言葉も希薄になるといういい方もできます。

だから私たちは、「ありがとう」を大切にするために、社会にあ

る多くの循環の再生に参画する必要があります。それらの循環が円滑に動くことで、それらと「ありがとう」の共振がはじまり、「ありがとう」の言葉が強く活きづいていくことができるようになります。

チーム3ミニッツは、「ありがとうのはがき」の購入金額から10円を、「グリーン電力」と「ウガンダ元・子ども兵たち」に還元するようにはがきを1枚150円で販売していましたが、それは地球環境に「ありがとう」をいう、あなたの言葉そのものだと考えています。

ウガンダの子ども兵

アフリカ・ウガンダでは内戦がおき、誘拐された子どもたちが強制的に兵隊にさせられた歴史があります。

その子ども兵の年齢は日本の中学生前後です。社会の右も左もまだ理解できていない子どもたちは、誘拐され洗脳され、人を殺す訓練を受けて兵隊となりました。京都のNPO法人テラ・ルネッサンスは、元・子ども兵たちが社会復帰するための施設をウガンダで運営しています。

子どものころに誘拐されたウガンダの子ども兵たちは、いまの日本の大人も経験したことのない体験をしています。そんな彼らは、平和な環境にいるいま、私たちよりも大きな「ありがとう」を持っています。チーム3ミニッツは、「ありがとうのはがき」を購入したあなたのハートを、ウガンダの元・子ども兵たちに届け、彼らとの「ありがとう」の循環をめざしたいと考えています。



地球に感謝することで「ありがとう」が育まれる

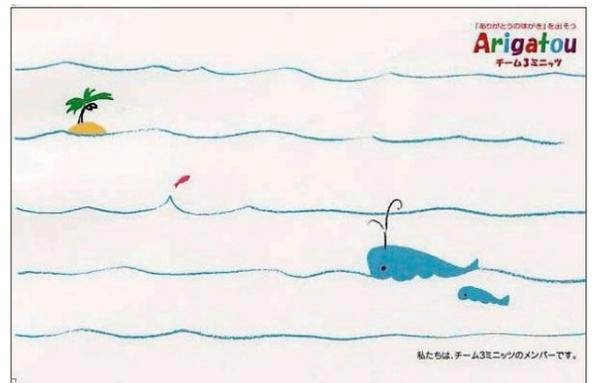
最初にも書きましたが、あなたの「ありがとう」が社会の中で循環することで、社会はより明るくなっていきます。同時に、地球環境が円滑に循環することで、あなたの「ありがとう」がさらに輝いていきます。

あなたが大切に思っている人への「ありがとう」の心を、「ウガンダの元・子ども兵」や「地球環境」と循環させながらチーム3ミニッツは、新しい社会循環型の「ありがとうのはがき」を届けていきます。

チーム3ミニッツのホームページで、社会の循環と共生する「ありがとうのはがき」の詳細をご覧ください。

チーム3ミニッツ・ホームページ <http://www.t3m.jp/>

「ありがとうのはがき」のページ <http://www.t3m.jp/earth/>



社会の循環と共生するチーム3ミニッツの「ありがとうのはがき」は、櫻井美奈子(右)さんと志村雅人さん(左)のイラストレーション15点からスタートします。今後、順次枚数を充実させ、全国のポストカード・ショップなどでご覧いただけるよう、チーム3ミニッツは努力してまいります。

櫻井美奈子(さくらい・みなこ)

1974年東京生まれ。中央大学卒業。パレットクラブスクール修了。食品メーカーに勤務後、イラストレーターとして独立。子ども雑誌、マタニティ雑誌のほか、ポスターマグカップなどのデザイン・イラストで活躍中。

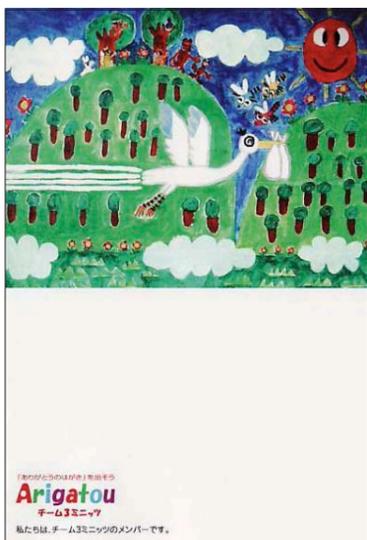
「見ると温かな気持ちになり、クスリと笑える」イラストレーションを得意としている。

<http://www.sakuraiminako.com>

志村雅人(しむら・まさと)

1988年東京生まれ。幼い頃から絵を描き、14歳のとき絵画教室「星の子」の鈴木誠子先生と出会い油絵に取り組み始める。

「周りの全ての人がニコニコしていることを望み、自分はずっと子どもであることにこだわる」画風で周囲の人に優しさを届けている。



社会の循環と共生する「ありがとうのはがき」のパートナー

「ありがとう」が循環するプロジェクトNO.1 テラ ルネッサンス 元 子ども兵 (少年兵 少女兵) との「ありがとう」の循環

チーム3ミニッツは、「ありがとう」が循環するプロジェクトNO.1として、ウガンダの元 子ども兵の社会復帰施設「スマイルハウス」を運営する、NPO法人テラ ルネッサンスと協賛することになりました。

ウガンダでは、政府軍と神の抵抗軍 (LRA) との対立が続いてきました。これまでに約 2万人の子どもが LRA に拉致され、子ども兵にされました。子ども時代に、兵士になることを強制された子どもたちは、その時代を軍隊で生活したため、除隊後も社会復帰を果たすことが大変困難な状況にあります。

「スマイルハウス」では、元 子ども兵たちが自立していくための、職業訓練や平和教育を行っています。はじめは暗い表情をしていた子どもたちも、ルネッサンス プログラムを受けていく中で、いきいきとした表情を見せるようになっていきます。

元 子ども兵のひとり、僕は先生になって、自分の体験を子どもたちに伝えるんだ。そうすることで子どもたちは戦争をしようと思わなくなるよ」といいます。

元 子ども兵たちは、いまの平和な環境の中で、私たちよりも大きな「ありがとう」を持っています。チーム3ミニッツは、あなたの「ありがとう」をウガンダの子どもたちと循環していこうと、NPO法人テラ ルネッサンスと協賛することになりました。

テラ ルネッサンス <http://www.terra-r.jp/>



テラ ルネッサンスが運営するスマイルハウス

アコトヴィッキーさん 24歳 (スマイルハウス 期生)

アコトヴィッキーさんは、14歳の時に LRA に誘拐され、9年間兵士として戦わされました。

彼女は、「私が誘拐されたとき、父は私を守ろうと必死でゲリラ軍に抵抗しました。でも父は、私が見ている前で銃殺されました。いまも私はそのときのことが忘れられないのです」といいます。

彼女は LRA の兵士と無理やり結婚させられ、子どもを産まされました。そして、2人の子どもの共に村に帰ってきました。

人の目を見て話しをすることもできないほど、心が不安定な彼女でしたが、いまでは施設で学んだ小規模ビジネスを始め、テーブルクロスやランチョンマットを作り販売しています。彼女のがんばりで、1ヶ月 10ドル (1100円) にも満たなかった収入が、いまでは 30ドル (3300円) を超えるまでになったといっています。



右、アコトヴィッキーさん
左、スマイルハウスの授業風景



「ありがとう」が循環するプロジェクトNO.2 おひさまエネルギーファンド 地球に「ありがとう」といえる社会に

人類の発展は、蒸気機関の発明により飛躍的に進歩しました。水を蒸気にしてピストンを動かす動力機関には、当時、木材や石炭が燃料として使われました。その発明により世界は驚異的に発展し、20世紀になると多くの国で工業が盛んになりました。

化石燃料である石炭や石油は、いま有限であることは知られていますが、20世紀初めまでは無限にあると信じられていました。

2世紀後半になると、その化石燃料が出す廃棄物が地球環境を汚染し、光化学スモッグなどが日本の各地で発生しました。いま、化石燃料を使わずに、「グリーン電力」を使おうという人が増えています。

「グリーン電力」には、太陽光発電や森林資源 (木質バイオマス) 発電、風力発電などがあります。

おひさまエネルギーファンドは、地域で市民主体のエネルギー会社が行う自然エネルギーや省エネルギー事業への出資を募集するファンドです。

私たちが暮らす地球環境がよくなることは、「ありがとう」の言葉がいきいきすることですが、皆さんの「ありがとう」が循環するプロジェクトNO.2として、チーム3ミニッツは、「おひさまエネルギーファンド」と協賛いたします。

おひさまエネルギーファンド <http://www.ohisama-fund.jp> 温暖化防止おひさまファンドブログ <http://b.bg.canpan.info/ohisama-fund/>

北海道 石狩市
市民風力石狩発電所
(事業主体: 株式会社自然エネルギー市民ファンド(※1))
事業内容: 風力発電(1,650kWの風車1基)への融資事業
本ファンドからの投資予定額 (上限): 1,000万円-50万円 (※6)
CO2削減効果: 90t-CO2/年(※2)
補助金: 独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構「地域新エネルギー導入促進事業」

岡山県 備前岡山地域
「晴れの国・市民太陽光発電」から広がる自然エネ・省エネのまちづくり事業
(事業主体: 備前グリーンエネルギー株式会社)
事業内容: 太陽光発電(400kW)、グリーン熱供給事業、省エネルギー事業
本ファンドからの投資予定額: 3.9億円
CO2削減効果: 1,054t-CO2/年
補助金: 環境省「環境と経済の好循環のまちモデル事業」

長野県 南信州地域
メガワットソーラー事業
南信州・地球温暖化防止エコ推進事業
(事業主体: おひさまエネルギーファンド株式会社)
事業内容: 太陽光発電(1,050kW)、グリーン熱供給事業、省エネルギー事業
本ファンドからの投資予定額: 4.7億円
CO2削減効果: 2,141t-CO2/年
補助金: 環境省「メガワットソーラー共同利用モデル事業」
環境省「環境と経済の好循環のまちモデル事業」

社会と循環する「ありがとうのはがき」シリーズ 左 葉 イラストレーション 志村雅人 右 葉 イラストレーション 櫻井美奈子

